

(外部公開用)

公開・非公開の別

公開 部分公開

非公開

令和5年度第2回浜松市介護保険運営協議会 会議録

1 開催日時 令和5年9月1日（金）午後7時から午後8時30分まで

2 開催場所 浜松市役所 北館 101・102会議室

3 出席状況

(1) 浜松市介護保険運営協議会委員（50音順）

出席 9名 磯部智明委員 稲垣佐登史委員 小野宏志委員
杉山晴康委員 鈴木謙市委員 鈴木隆之委員
西澤基示郎委員 山田紀代美委員 弓桁智浩委員

(2) 事務局

介護保険課 大村貴弘課長 鈴木真弓課長補佐 中澤学主幹 伊藤宏樹副主幹
寺田達弘副主幹 前和恭副主幹 山下悦代副主幹
高齢者福祉課 亀田岳史課長 鈴木博担当課長 大石尚課長補佐

4 傍聴者 1名

5 議事内容

- (1) 令和4年度介護保険事業について
- (2) 次期はままつ友愛の高齢者プラン（骨子案）について

6 会議録作成者 介護保険課 総務・給付グループ 近藤

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有・ 無

8 会議記録

1 開会

2 議事

(1) 令和4年度介護保険事業について

(会長)

議事1点目、「令和4年度介護保険事業について」事務局から説明願いたい。

<事務局から資料1について説明。>

(会長)

ただいま事務局から説明があったが、ご意見、ご質問等があれば発言を願いたい。

(A委員)

市内において居宅介護支援事業所は、減少傾向にあるのか。ケアマネージャーさんが少なくなってきた、また高齢化している一方で介護サービスの利用者は増えている。そうした現状も踏まえ、市には対応をしていってほしい。

(事務局)

改めて次回以降の介護保険運営協議会やプランの策定の中で示していきたいと考えている。

(B委員)

資料をみると浜松市の傾向として要介護1が多いが、その理由として「認知症が原因によるもの」または「不安定な状態によるもの」なのか、データの精査をしていくことで介護予防の視点から早期のアプローチにつなげることができるのではないかと。

(事務局)

今後は、数値をもって示していけるよう分析を行ってほしい。

(C委員)

民生委員が行っている高齢者の実態調査の内容をみると、地域の中には介護認定を受けた方がいいのではないかと思われる人を見受けられる。調査結果は、地域包括支援センターにも共有されているが、実際に介護申請をしている人達の中で、そうした情報を基に申請に至る人がどのくらいいるのか確認したい。

(事務局)

地域包括支援センターにも確認を行ったうえで、改めて説明させていただきたい。

(D委員)

次期友愛の高齢者プランの中では、総合事業の対象者の推移などについてはどう示していくのか教えてほしい。

(事務局)

プランにおける総合事業の対象者にかかる記載については、今後検討のうえで改めてお示ししたい。

(会長)

この案件については聞き置くこととする。

(2) 次期はままつ友愛の高齢者プラン（骨子案）について

(会長)

次に、「次期はままつ友愛の高齢者プラン（骨子案）について」事務局から説明願いたい。

<事務局から資料2について説明。>

(会長)

ただいま事務局から説明があったが、ご意見、ご質問等があれば発言を願いたい。

(D委員)

資料の「次期計画体系の変更点」に「障害者福祉や他分野との連携促進を図ることが重要である」との記載があるが、他分野との連携としてまずは、障害分野から連携を進めていくという解釈でよいのか。また重点施策 No.1「地域共生社会の実現」の中に「地域包括支援センターの運営体制の充実」とあるが具体的にはどのようなものか教えてほしい。

(事務局)

障害者福祉に限らず児童分野など多くの分野との連携を図ることを想定しており、障害分野を優先的に促進していくという方向では考えてはいない。

「地域包括支援センターの運営体制の充実」については、高齢者人口の増加に伴う対応や業務量に見合った人員配置の整備に対し、状況を確認のうえ、後方支援についてプランに盛り込んでいきたいと考えている。

(E委員)

体系図の施策展開の中で現プランの⑦「リハビリテーションサービス提供体制の充実」は、次期プランにおいては、⑤「自立支援、介護予防・重度化防止」に含まれるという解釈でよいのか。

(事務局)

そのとおり。

(A委員)

6点ほど質問をさせていただきたい。

- ① 地域包括支援センターの人員配置を高齢者の人口をもって決めていくのは難しいのではないかと。相談者一人の方が抱える問題が複数、複雑化している状況も踏まえたうえでの検討をお願いしたい。
- ② 健康寿命の延伸について、具体的な数値を教えてください。
- ③ 施設整備の推進について、具体的な内容を教えてください。
- ④ 認知症の症状が複雑化していることも踏まえた施策を考えてもらいたい。また「認知症サポート医」についてプランに記載を盛り込んでほしい。
- ⑤ 福祉避難所や個別非難計画について、プランへの記載をお願いしたい。
- ⑥ 実態調査の結果の中で、支える側にはなりたくないと答えている方がいたが、地域共生社会の実現に向けて、元気な方が高齢者や要介護者を助けていく社会にできるよう住民が地域活動に参加していくよう施策を考えてほしい。

(事務局)

- ⑥ 地域活動については手遅れの印象もあるが、60歳で定年を迎えた後も元気に働いている高齢者も増えており、以前と比べて状況も変化してきていることも踏まえて、自助・共助の観点などから対応について示していければと考えている。
- ②健康寿命の延伸、③施設整備、④認知症の施策、⑤福祉避難所や個別非難計画については、次回にプランの素案としてお示しさせていただく予定。

(事務局)

- ① 地域包括支援センターの人員配置については、高齢者人口に加えて、相談ケースの複雑化なども踏まえたうえで検討していく趣旨をプランに記載していきたい。
- ④ 認知症の施策および「認知症サポート医」については、素案の中で記載をさせていただきたいと考えている。

(F委員)

今後、区の再編も控えているが、次期プランにおける地域の単位の考え方について教えてほしい。都市部と中山間地域との状況の違いもあることから難しい面もあるように感じている。

(事務局)

次期プランの標記は、3区として示していく予定である。日常生活圏域については、29圏域の予定であり素案として記載していく中で、御意見をいただければと考えている。

(C委員)

計画の中に災害に対する項目があるが、現状として市は各自治会に対し災害時の計画作成や支援者の名簿の作成などを依頼しているが、実態はあまり進んでいないように感じる。民生委員としても先走っての対応はできない。市内の高齢化率は30%を超えており、高齢者の面からも災害対応に対し、きちんとアプローチしていくべきではないか。

(事務局)

危機管理課、高齢者福祉課等の関係部署とも調整のうえ、計画に記載する内容を検討していきたい。

(G委員)

自治会長の任期が地区によって異なっており、会長の任期が長いところであれば災害時の要支援者名簿の整理にも十分取組むことは可能だが、任期が2年と短い場合には名簿の整理まで取組むことは難しく、市内で一律に進めていくのは困難な現状にある。

(事務局)

個人情報の問題等もあり、進めていくことが難しい状況にあると認識している。今後は、LINEの安否確認の機能などICTの活用の面からも災害時の対応について検討していきたい。

(A委員)

近年、高齢者の歩くスピードが上がってきており、65歳以上を高齢者と呼べなくなっているように思う。65歳以上の人口をもって高齢化率とする考え方も改めていく時がきているように感じている。

(B委員)

資料の具体的な内容詳細の中で「介護職に対するマイナスのイメージを払拭」との記載があるが、あえてマイナスという表現を使う必要があるのか。

(事務局)

プランの記載からは削除とする。

(会長)

この案件については聞き置くこととする。

3 その他

(事務局)

会議録については、近日中に送付させていただくので、確認をお願いしたい。
次回の会議については、9月29日(金)に開催を予定している。

4 閉会